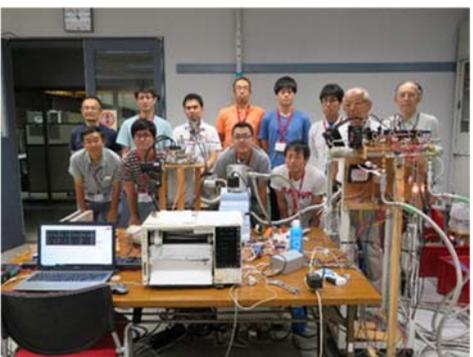


電気電子工学系の学生が低温技術講習会に参加しました

8月5日(日)～10日(金)、低温工学・超電導学会冷凍部会が主催する「77K 小型冷凍機を作ろう」というテーマの低温技術講習会が、茨城県つくば市の国立研究開発法人 物質・材料研究機構で開かれ、電気電子工学系の4年生2名が参加しました。この講習会では、電磁弁とロータリーバルブ、それぞれのダブルインレット法によって到達温度や冷凍能力にどのような影響を与えるのか、冷凍機の自作を通して理論的に学ぶことができ、今回製作した冷凍機は最低到達温度が電磁弁で37K、ロータリーバルブでは51Kと、前回までの記録を更新する結果を得ることができました。



物理学系「自立と体験2」で国立天文台を見学しました

7月31日(火)、物理学系の必修科目「自立と体験2」で学部2年生67名が長野県南佐久郡にある国立天文台 野辺山宇宙電波観測所を見学しました。

最先端の天文設備(電波望遠鏡・太陽望遠鏡・電波干渉計)や科学成果を見学し、天文に対する興味や知識、そして基礎物理学への関心を高めることができました。



電気工学専攻の大学院生が研究発表しました

8月5日(日)～8日(水)、北海道札幌市で開催された「第21回 画像の認識・理解シンポジウム(MIRU2018)」で、電気工学専攻 博士前期課程1年 大森結希さん(嶋 好博研究室)が研究発表(ポスター発表)をしました。

このシンポジウムは画像の認識と理解技術に関する国内最大規模の会議です(参加者700名程度、口頭発表30件、ポスター発表224件、企業展示30件)。研究者、技術者、そして次世代を担う学生の議論・交流の場であり、基礎から応用まで最新の研究発表と討論の場です。

研究発表のタイトル:「交通信号機の点灯検出の一手法」

発表者:大森 結希、上石 和樹、酒井 優樹、嶋 好博

研究内容:大森さんは車載カメラの画像認識技術について学部生から研究に取り組み、将来は自動走行や運転支援技術への応用を目指しています。今回の発表は大森さん自身が交通信号機の点灯を検出するプログラム(赤信号、青信号、黄色信号の識別)を作成し、その手法の有効性を実験的に確認したものです。公開されているTraffic Lights Recognition(TLR) Public benchmarksの1118枚の車載カメラの画像に対し、赤信号の再現率0.846、適合率0.453という結果を得ることができました。

